

行政をオープンに

(樋渡) 武雄市、あるいは自治体について、伊勢谷さんの目から見てここは足りないぞとか、ここに期待したいということとは？

(伊勢谷) それこそ、樋渡市長がやってらっしゃる情報発信や情報公開などに期待しているんです。

行政の中の情報を市民が知らない、あるいは見ても理解しやすい状態になっていない、見せるための表現になっていないということが多いですが、これは情報を提供する側に問題があると思います。

(樋渡) 僕らは、色々なところと組んでできる限り市の持っている情報を市民に公開する。そういうオープンでワクワクすることが楽しいということをドンドン出していきたいんですよ。

(伊勢谷) 情報をオープンにするのは怖いと考えている人が多いですが、オープンにすることで多くの人の知恵をもらい、それで新しい展開を作る。化学変化っていうか、民衆の力がきちんと結集してくる形というか。

情報が公開されず誰も関われないのは大きな単位で見るとすごいマイナスなんです。

(樋渡) 日本のほとんどの人が地方に住んでいます。地方の人が力を持っているいろんな情報発信や情報の共有をすれば、日本もまだまだ元気になれると思うんですけどね。

(樋渡) ここで伊勢谷さんに2013年の抱負をうかがいたいのですが。

(伊勢谷) まず、クラウドガバメントラボの具体的なシステムを作りたい。例

みんなに脳味噌になってもらうて。

(樋渡) その行動力というか、実行力ですよ。私もどこまでもついてきますから(笑)。

僕らがやる自治体ベースでしか広がらないですが、リベースには僕らが届かない層に届けることを期待しています。

いまはいつでも面白い時代

(樋渡) 以前、トヨタ自動車の張富士夫会長とお話させていただいた時に、いいなと思った話があった。車の鋼板って1万回も叩くらしいですね。叩かれるのに耐えたものしか良いのが残りませんって言われて。

人も同じで、批判に耐えられないような人はだめだ。なるほどそうか、と思って。

(伊勢谷) たしかにそうですね。みんなが賛同してくれることを言える人っていないですよ。特に引張つていかなくちやいけなない立場の場合は批判されることも多いです。

でも、そこで怯まずに樋渡市長のように市民の事を考え行動を起こしていく事が、僕は大事だと思います。

(樋渡) いろんな実験をやつて、でもそれは修正が可能だし、やりたくなければやらなくてもいい。自分のところに一番合う良いものを選ぶっていう、そういう時代になると面白いですね。

(伊勢谷) 自分の限られた命をいかに社会のために使うか、それが生きることにつながる。そう考えた時に、迷いがなくなっていくんです。

(樋渡) いい意味の楽観主義というか、人を信じる。今の世の中で一番足りないことかもしれません。今回はどうもありがとうございます。

(伊勢谷) こちらこそどうもありがとうございます。

武雄市長
樋渡啓祐
Hiwatashi Keisuke

